

隠者の如く建築を愛す 構造家・久米弘記

朝倉幸子◎TH-1
illustration: Taco

■わが道

構造家の久米弘記さんは、[名刺を持たない生活]をして10年になる。スタッフも積極的には持たない隠者。それだけでも絵になる久米弘記さんだ。所を探していた覇志堂が、建築家の豊田恒行さんの新作T-FLATの内覧に誘われたのをきっかけに再会を果たした。RC造の迫力ある共同住宅は豊田さんの所有でもある。久米さんは道路を挟んでの前作に引き続いて構造設計を依頼された。アトリエ・ファイ出身で、現在は生家の跡を継いで土木建設会社の経営者もしている異色な建築家が豊田さんなのです。1966年に愛知県名古屋市の近郊に生まれた久米さんは、名門名古屋大学へは自宅通学できた。祖父が宮大工もしたという棟梁で、一人で自宅を建てていたのを手伝ったのが小学生の頃。母親が迎えに来るまで現場から離れなかった。建築に興味を湧いたのが、この時期の物をつくる原体験からなのでした。名古屋大学工学部は、元来構造の教授の層が厚かったから、大学院でも構造を選んだのは自然だったそうなのです。

■木村俊彦先生&佐々木睦朗先生

就職を考えたときに、アトリエ系の構造事務所へ行きたいと思った。その理由は自分は組織事務所での仕事が合わないと思ったからだ。人嫌いともいえそうな秀才の孤高ぶりはその頃からだったようです。指導教官の松岡理先生に相談して、当時最前線で目覚ましく活躍していた木村俊彦構造設計事務所へ就職することができたのは必然だったろう。その後、佐々木睦朗構造計画研究所へ移籍して取締役として番頭の立場になったのは、佐々木睦朗先生が久米さんの仕事ぶりを見抜いた結果であろう。名古屋大学大学院工学研究科建築学科専攻教授に佐々木睦朗先生が着任した1999年である。久米さん自



身は担当物件を持たずに佐々木先生の不在をサポートする役目だった。組織での仕事よりアトリエでの設計を求めた久米さんが、その立場を得て大型建物を多く手がけたのは皮肉といえるかも知れません。

さらに2002年にはSAPS (Sasaki & Partners) を、佐々木先生と共同設立した。SAPSは伊東豊雄さんのバルセロナ見本市会場モンジェイック2や磯崎新アトリエのミラノのプロジェクトなどが続きました。同時に、久米弘記建築構造研究所も設立して今日に至る。そのつながりで元所員さんたちとの設計をすることが多い。名刺を持たなくてもよい仕事仲間が、沢山いるのというわけなのです。

■明快に

豊田恒之さんの設計した建築は前衛的なRC造建築だが、明快な鉄骨造も好む。磯崎アトリエ出身の川久保智康建築設計事務所が設計の、沖縄に建設中の(仮称)サントリーニ宮古島の設計にもかかわっている。培ってきた建築家からの意向に合わせる術は熟練のベテラン構造家です。趣味は、「読書、映画鑑賞、ロック鑑賞」と生真面目に答えてくれた。リストがピアノ用に編曲したベートーヴェンの交響曲などをバックに流しながら、中目黒の事務所で一人黙々と解析をする姿が浮かぶ。思いがけず「料理をするのが好きかも」ともいう。きっと素材を活かしたシンプルなレシピがお得意なのは、建築の好みと似ているのではなからうか。「結局、何が好きかっていうと、建築が好きなんだと思います」と白状した。建築界を離れるには早計な、クールで実力派の構造家がここにいます。